

むさしのヒューマン・ネットワークセンターだより

Vol.52

2015年 12月

そよ風



Contents

- トピックス(女性活躍促進法は働く女性の味方になるか?)… ①
- 講座報告…………… ②～③
- 新着図書紹介と報告…………… ④～⑤
- 講座予告と各種利用案内など…………… ⑥

topics

女性活躍推進法は働く女性の味方になるか？

1985年に制定された男女雇用機会均等法から30年目となる今年、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」（女性活躍推進法）が制定され、来年4月から施行されます。これからの女性の就労にどのような影響を及ぼすのでしょうか。

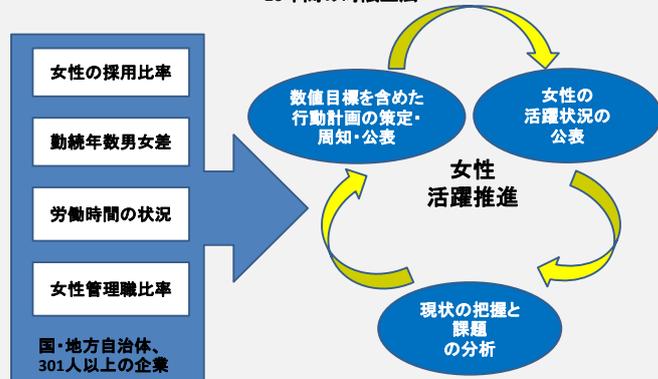
この法は、正規雇用、非正規雇用といった雇用形態、自営業等の就業形態に関わらず、既に働いている又はこれから働こうとするすべての女性を対象としています。

従業員301人以上の企業（26年6月現在15,020社）は自社の①女性の採用比率、②勤続年数男女差、③労働時間の状況、④女性管理職比率の状況を把握し、量的目標や取組などを内容とする「事業主計画」を策定し、年に一度はその達成度の発表が義務付けられます。いわゆる女性の就労状況の見える化です。

2020年までに女性の管理職比率を30%とする目標にはまだまだほど遠く、現在11.3%。今年3月に行われた国連婦人の地位委員会(CSW)において「2030年までに完全な男女平等をめざす」決議が反対なしで決議されました。世界の国々は203050に向けて動き出しているのです。

このような中であって来年4月に向けて急ぎ計画作りや対応策案の検討に追われている企業は多いでしょう。一方地方自治体は規模に関わらず、特定事業主としてこれらが義務付けられています。ちなみに武蔵野市役所では女性管理職は9人（8.9%）で今後の対応策が求められています。

女性活躍推進法（2016年4月施行） 10年間の時限立法



就労している女性は増えており、現在2761万人（27年7月労働力調査「基本集計」）、また就労を希望する女性は303万人でこの7割以上が柔軟な働き方ができる非正規就労を選択しています（27年男女共同参画白書）。そして全労働者のうち非正規社員が4割を超えた今（2014年厚生労働省「就業形態の多様化に関する総合実態調査」）、長時間労働等働く環境の改善は女性だけでなく男性にとっても大きな課題であり、この法による労働時間の公表等が解決策の糸口になることを願っています。

女性にとって働きやすい職場は男性にとっても働きやすい職場と言えます。今働いている人にとって自分の働く会社や地方自治体がどのような状況となっているか見てみるよいチャンスです。またこれから就職活動をする人にとって職場選択の際に一つの物差しになることは間違いありません。

講座報告

小さな子どもを持つお母さんのための講座



■日時：9月11・18・25日（金）10：00～12：00

■会場：市民会館 第一学習室・保育室

■講師：加藤 千恵さん（東京女学館大教授）中島 恵さん（臨床心理士・臨床動作士）

結婚や出産で仕事を辞めたり、育児休業期間中に社会と接点がなくなると不安を感じている子育て中のママ達が集まり、意見交換することで悩みを共有できた講座を、昨年に引き続き、三回連続で行いました。講師の加藤先生に女性学の考えを学びながら、不安やイライラの要因を探し、他者との関係性や、自分らしく生きることについてじっくり考える時間ももてました。託児を設け、子どもと離れ自分だけの時間を保障することもこの講座の重要な要素となっています。さらに今年度の講座では、臨床心理士の中島先生からストレスマネジメントを学び、筋緊張を自分でゆるめるリラクゼーション法を参加者同士で実演しその効果も体感できました。

参加者の感想に「私自身、母親だから～しなければならない、こうあるべきという暗黙のプレッシャーに悩んだことがあります。古い考え方の家族にいらだちを覚えることもあります。そういうもの

もどこかで諦めていたのですが、本当にそうなのかと考える女性学とはなんて素晴らしいのでしょうか。」また、「男とは…女とは…と私自身いろいろ思って過ごしてきましたが、これからはきっと変わった視線で物事を考えていける気がしています。」など、女性学を学んだことで課題の社会化や自分や周りの人との関係性を見直すきっかけとなりました。

自分を苦しめているのは子どもや家族ではなく、社会が押し付けているもの（ジェンダー）と気づき、再度自分と子どもや夫、そして社会を見つめ直す視点を獲得する、そんな講座となりました。



託児付きの講座は、いつも本当に貴重な時間でこのような講座が増えることを期待しています。

参加者の声

日頃、子どものこと（ストレスなど）ばかり考えていましたが、自分自身のストレスフリーも大事なのだと思いました。

“この関係は、どこがおかしい…”

家庭内支配～モラハラを知る講座

■日時：11月15日（日）13：00～15：00

■会場：武蔵野プレイス スペースC

■講師：本田 りえさん

（臨床心理士 『「モラルハラスメント」のすべて』（講談社）著者）



『女性に対する暴力をなくす運動』（毎年11月12日～25日）の一環として、“モラル・ハラスメント”についての講座を開催。市外からも多数の参加者があり、定員を超える盛況となりました。

今年初め、芸能人の離婚原因として話題となり、流行語大賞ノミネートにも入った「モラハラ」。ですが、その怖さを本当に理解している人はまだ少ないようです。講座は「モラハラ」の定義を丁寧に確認し、その行為の実態、加害者側に共通する性格や行為、被害者側が心身に受ける影響にも及びモラハラの基本全てでした。中でも、被害者と加害者の支配（従属）関係に見られる共通した傾向や、こうした精神的DVが、そばにいて被害を目にする子どもの脳にまでダメージを与えることについては、衝撃

をもって受け止められたように思います。

講師の本田りえさんは、武蔵野大学心理臨床センターで相談員やスーパーバイザーをされているDVや性被害などのトラウマ・ケアの第一人者。豊富な実例を、穏やかに分かりやすく、静かな迫力をもって語っていただきました。先生のお話を聞いて“もしかして自分もモラハラを受けていたのかも…”と思いあたった方、会場でたくさん参加者を目にして“自分だけの問題と思っていた。こんなに多くの人が同じ悩みを持っていたとは”という方など、多くの反響と感想を頂きました。

“モラハラを受けている”ことを、まず自らと周囲が“気づく”ことが、脱け出すための第一歩だということを、改めて感じました。

モラハラの基本的なことが網羅されていてよかった。ハラッサー（モラハラをする人）の特徴など参考になった。

参加者の声

モラハラのことが理解できた。子どもの時の家庭環境がモラハラだったので、子育てに影響しないようにしたいと思った。

人生100年時代の“自分丸”航海術 樋口恵子さん講演会



■日時：11月7日（土）14：00～16：00

■会場：武蔵野市役所 西棟8階 811会議室

■講師：樋口 恵子さん（NOP法人「高齢社会をよくする女性の会」理事長 東京家政大学女性未来研究所所長）

樋口恵子さんをお招きして人生100年時代を目前にこれからの人生をよりよく生きていくための講演会を開催しました。受付開始後10日ほどで定員に達し、多くの方にお断りをせざるえない状況となってしまうととても残念でした。

戦後大きく変わったこと、それは寿命が延びたことであり、長寿は平和と一定の豊かさがなければありえないこと、まずは機嫌よく長生きしなければ損！とのお話からスタートしました。日本は長寿世界一の国（2014年女性86.83歳、男性80.50歳）。しかし女性が元気で生きられる年齢（健康寿命：女性74.21歳、男性71.19歳）と寿命の差が大きいことから世界との比較にも話が及びました。

女性の管理職比率はまだ低く、地方議会の女性数と人口減少の関係を見ると女性の議員割合が14%以上は生き残れる市区町村だそうです。（武蔵野市の女性市議会議員は10人、全体の38.5%。）これからしても日本は経済大国でありながらまだまだ女性参画貧国であると説明されました。

少子化についても日本の合計特殊出生率は韓国に次いで1.42（2014年）、一人っ子政策をとっている中国も1.6。まだまだ嫡出子を望む日本ではフランス等のように子供が生まれやすい社会への転換が必要で若い人たちが子供を産んでいいと思う社会へ、女性が働きやすい社会へ、国が先導しなければならぬと指摘されました。そして私たちは、今はもう自分たちが育った時代とは違うことを認識して、娘や息子がどんな結婚相手を連れて

きてみてもまずは反対しない心構えが大切だと力説されました。

この頃、50代、60代の結婚相談が増加していることから50歳で独身の男女が増えていそうです。日本の医療保険制度は素晴らしいし、介護保険制度も有用だが、家庭で親や配偶者を介護する男性介護者が多くなっていることからしても介護は男性が結婚しそびれてしまう原因の一つ。これからファミレス（家族のない）の時代に入っていくのだと語られました。

これからを元気に生き抜いていくために重要なこととして3つのことを述べられました。一つ目は戸山ハイツや高島平団地に好事例があるように地域社会の中で血縁がなくても支えあえる町を作っていくこと、二つ目は自分で稼いでいくこと、働くことはお金を稼ぐだけではなく人とのつながりを生み出す点からもとても大事、そして三つ目はたとえ病気になっても病人ではないので、健康寿命を長くするために体を大切にすること。最後に、社会の変化を受け止めて自分自身も変革すること、人生の海図を描きましょうと締めくくられました。

2時間以上にわたる歴史的な経緯、政治的な観点から今の日本の状況を豊富なデータに基づきわかりやすく、時にはウィットに富んだ、しなやかな、流ちょうなお話に参加者は聞き入ってしまう講演会となりました。



参加者の声

魅力的な内容、とても生きるに大切なお話でした。何時間でも聞いていたかった。（80代女性）

いろいろ病気をされても病人にならず、次々と新しいテーマに向かっていらっしゃる先生の姿勢にとても励まされた。（60代女性）

現在の環境がよくわかりました。考えなければならぬことが、多々ありました。

パネルで参加しました。

センターでは今年も次のイベントにパネルを展示しました。

○平成27年度「東京ウィメンズフォーラム」
11月7日・8日 東京ウィメンズプラザ

○第14回子育てフェスティバル
11月28日 武蔵境スイング

○DV防止パネル展
女性に対する暴力をなくす運動（毎年11月12日～25日）の環として11月12日～18日まで、武蔵野プレイスで、18日～25日までは市民会館ロビーにて、11月27日～12月3日、市役所ロビーで行いました。



▲西原 理恵子さんのポスター

新着

図書一覧

12月より貸出し開始します！

※センターの蔵書1700冊は、登録すればどなたでも、一人3冊まで2週間借りることができます。どうぞご利用ください。

書名 (50音順)	著者	出版社	出版年
赤ちゃんにきびしい国で、赤ちゃんが増えるはずがない。	境 治	三輪舎	2015
「居場所」のない男、「時間」がない女	水無田 気流	日経新聞出版社	2015
男がづらいよ 絶望の時代の希望の男性学	田中 俊之	KADOKAWA	2015
おひとりシニアのよろず人生相談	樋口 恵子	主婦の友社	2014
俺に似たひと	平川 克美	朝日文庫	2015
介護離職から社員を守る ワークライフバランスの新課題	佐藤博樹・矢島洋子	労働調査会	2014
家事の政治学	柏木 博	岩波現代文庫	1995
下層化する女性たち	小杉礼子・宮本みち子	勁草書房	2015
家族という病	下重 暁子	幻冬舎新書	2015
学校では教えてくれないセックス・妊娠・出産の話	宋 美玄	光文社	2015
ケアのカリスマたち 看取りを支えるプロフェッショナル	上野 千鶴子	亜紀書房	2015
ここが変だよ地方議員	小田 りえ子	萌書房	2015
子どもに貧困を押しつける国・日本	山野 良一	光文社新書	2014
子どもの幸せを守る 円満離婚のカンドコロ	高橋健一・ふじきたりん	飛鳥新社	2014
子どもの貧困Ⅰ	阿部 彩	岩波新書	2008
子どもの貧困Ⅱ	阿部 彩	岩波新書	2014
子供の貧困連鎖	保坂渉・池谷孝司	新潮文庫	2015
子どものまま中年化する若者たち 根拠なき万能感とあきらめの心理	鍋田 恭孝	幻冬舎新書	2015
高卒女性の12年 不安定な労働、ゆるやかなつながり	杉田 麻衣	大月書店	2015
これから大人になる10代のあなたへ —セックスと愛、そして未来のすべて	ミカエラ ビョーム	ノルディック出版	2007
10代からの情報キャッチボール入門-使えるメディア・リテラシー	下村 健一	岩波書店	2015
時間と場所を選ばないパラレルキャリアを始めよう！	石山 恒貴	ダイヤモンド社	2015
仕事と家族	筒井 淳也	中公新書	2015
出生前診断	河合 蘭	朝日新書	2015
主夫になってはじめてわかった主婦のこと	中村 シュフ	猿江商会	2015
女性たちの貧困 ”新たな連鎖”の衝撃	NHK「女性の貧困」取材班	幻冬舎	2014
人生100年時代への船出	樋口 恵子	ミネルヴァ書房	2013
(新) 気づいて乗り越える	長谷川七重+グループしおん	メディアアイランド	2015
迫りくる「息子介護」の時代 28人の現場から	平山 亮	光文社新書	2014
性暴力の理解と治療教育	藤岡 淳子	誠信書房	2006
定年が見えてきた女性たちへ —自由に生きる「リ・スタート力」のヒント	野村 浩子	WAVE出版	2015
ドメスティック・バイオレンスと民間シェルター —被害当事者支援の構築と展開	小川 真理子	世織書房	2015
ヌードと愛国	池川 玲子	講談社現代新書	2014
ひきこもりのライフプラン 親亡き後をどうするか	斉藤環・畠中雅子	岩波ブックレット	2012
非婚ですが、それが何か！？結婚リスク時代を生きる	上野千鶴子・水無田気流	ビジネス社	2015
離婚で壊れる子どもたち 心理臨床家からの警告	棚瀬 一代	光文社新書	2010

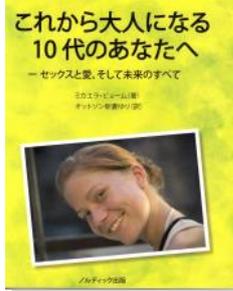
センターで購入した本の中から

赤ちゃんにきびしい国で、 赤ちゃんが増えるはずがない。 境 治 著 三輪舎



このタイトルに聞き覚えのある方も居るのではないのでしょうか。昨年ネットに転載され大反響を呼んだブログ記事が1冊の本になりました。コピーライターでもある著者が自ら取材した日本全国の母親・子ども・地域と保育の新しいプロジェクト、赤ちゃんと縁遠い“昭和型”社会に代わる新しい社会システムの提案、これらが平易な言葉で率直につづられ、“赤ちゃんに優しい国”のイメージが頭と心の両方に浮かんできます。

これから大人になる10代のあなたへ セックスと愛、そして未来のすべて ミカエラ・ビョーム 著 ノルディック出版(海象社)



スウェーデンのジャーナリストによる“思春期のガイドブック”。身体の悩み、異性/同性愛、セックス、避妊、妊娠、暴力、アルコールや薬物などすべてに関し客観的かつ実践的知識が満載。それらを材料に自分で考え、判断できることが自立の第一歩であると納得させられます。自分を大事にし、同様に他者を尊重することも教えてくれる最良の性教育書。大人にもおすすめです。

子どもの幸せを守る 円満離婚のカンドコロ 高橋健一・ふじたきりん 飛鳥新社



養育費の不払いや残ったローン、別れた相手と子どもの交流…。離婚にあたって悩みのタネはたくさんありますが、子どものことを第一に考えるなら『円満離婚』を目指すべき、と1万件の相談を受けてきた行政書士の著者は説きます。親しみやすいマンガで法律的なことも理解しやすく描かれ、子どもの自己肯定感を守る“離婚の考え方”が分かる、という点でも貴重な一冊です。

まだまだあります！

テーマ別”話題の本”

貧困問題

- ・女性たちの貧困（NHK「女性の貧困」取材班）
- ・下層化する女性たち（小杉礼子・宮本みち子編著）
- ・子どもの貧困Ⅰ・Ⅱ（阿部彩著）
- ・子どもの貧困連鎖（保坂渉・池谷孝司著）

男性介護

- ・迫りくる「息子介護」の時代（平山亮著）
- ・俺に似た人（平川克美著）

メディアと文化

- ・ヌードと愛国（池川玲子著）
- ・10代からの情報キャッチボール入門（下村健一著）

SEARCH ヒューマン 蔵書

センターには、仕事や生き方、子育てに介護、家族、ジェンダー、人権まで、男女共同参画関連の視点で集めた1700冊以上の書籍が揃っています。ホームページの蔵書検索機能を是非ご利用ください。書名、著者名、キーワードで検索ができます。

報告

バス研修「男女共同参画推進団体交流会」
◆日程：平成27年10月23日（金）
◆行程：台東区「はばたき21」樋口一葉記念館 他

昨年12月に議会提案で「男女平等推進基本条例」が制定された台東区を訪問、男女共同参画センター「はばたき21」の見学をメインに、男女共同参画推進団体交流会を行いました。

区の担当課から、条例制定の経緯や目的、基本理念等のお話を伺いました。また、今後は条例を今まであまり関心のなかった区民にどのようにアプローチしていくかが課題とのことでした。条例制定に向けて動き出した武蔵野市にとっても、参考になる意見交換ができました。浅草寺周辺散策と樋口一葉記念館の見学など、充実した内容の交流会となりました。

◆8月25日 市議会議員懇談会が行われました。

11名の議員の参加をいただき、協議会メンバーと意見交換を行いました。男女共同参画フォーラムの講演会や講座などの事業に参加された議員の皆さまから、良い刺激になったとの感想が寄せられました。また、パネル展示に対しては、面白く拝見した、近現代史の勉強になるとの評価もいただきました。昨年議員懇談会で、条例市民案を作ったらと提案いただいたことが後押しになり条例案を市長に提出したことは、市民パワーがあることの証明だとの言葉に、懇談会の意味を改めて感じる事ができました。

（むさしの男女共同参画市民協議会より）

講座予告



詳細は市報または、センターHP
でご確認ください！

これから行う講座

申込受付中

◆「現代メディアの中の性差別を考える」

◇平成27年12月19日（土）10：00～

◇講師：諸橋 泰樹さん（フェリス女学院大学教授）

新聞やテレビなどのメディアに表現されている「女」と「男」の情報に違和感を覚えたことはありませんか。ちょっと立ち止まって考え、ジェンダーの偏りに気づき、判断力を付けてメディアと付き合う方法を考えるワークショップを取り入れた当たり前を問い直す講座です。

◆「隣る人」上映会と

企画者のアフタートーク

◇日時：平成28年2月8日（月）13:30-15:30

◇会場：武蔵野プレイス4階フォーラム

◇講師：稲塚 由美子さん（隣る人企画）

親と暮らせない子どもたちと、隣りあう保育士たち。そして、子どもとふたたび暮らすことを願う親。ある児童養護施設の日常を追う8年間のドキュメンタリー映画です。
(受付開始1月1日)

◆家庭科男女共修の「ピフォー、アフター」(仮)

◇平成28年3月3日（木）午前予定

◇講師：斎藤 弘子さん

(元高校教諭 現家庭科教育研究者連名代表)

◆「今、震災が起こったら

避難所運営と女性の視点(仮)」

◇平成28年3月25日（金）午後予定

◇講師：清原 桂子さん（神戸学院大学教授）

◆「別れ」を選ぶそのまえに

◇平成28年1月14日・21日（木）14：00～

◇①気持ちを整理しよう～決めるのは自分

講師：長谷川 能扶子さん（キャリアカウンセラー）

◇②おさえておきたい法と制度の知識

露木 肇子さん（弁護士）

3組に1組は離婚する時代。そうは言っても「離婚」は依然、人生の大きな選択であることには変わりありません。別れた後の暮らしのこと、仕事のこと、子どものこと…。離婚の現状を知り、“自立”について日頃から考えておくことが、その後の生き方の勇気と自信になります。自分なりの決断と、自立のためのヒントを見つける連続講座です。

(受付開始12月15日)

◆「シングルマザーのための

し・ご・と応援講座」

◇平成28年2月9日・16日（火）（全2回・午後）

◇講師：森岡 千恵子さん

(子ども家庭支援センター 母子・父子自立支援員)

子育てをしながら働きたいけど、どんな仕事を目指したらいいかわからない…。離婚を考えているけど、生計の維持が不安で踏み切れない…。こんな悩みを抱えている方のための“確かな一歩”を踏み出すための講座です。
(受付開始1月15日)

◆女たちが『あたりまえの幸せ』を

手に入れるために『無頼化』って何？

◇平成28年3月12日（土）午後予定

◇講師：水無田 気流さん（詩人・社会学者）

秘密
厳守

悩みごと相談

-ひとりで悩まずに、まずは相談を-

無料

■女性総合相談…50分まで面談または電話・予約制

第2木曜日（10:00～、11:00～）

第4火曜日（13:00～、14:00～、15:00～）

★場所・問い合わせ

市民活動推進課市民相談係（市役所西棟7階）

☎60-1829 ☎60-1921（予約専用）

■ひとり親家庭・女性相談

月～金曜日（9:00～17:00 祝日・年末年始を除く）

★場所・問い合わせ

子ども家庭支援センター ☎60-1850

● センター利用案内 ●

開館時間：月～土曜日 9:30～17:00

休館日：日曜日・祝日、年末年始

会議室利用時間：《午前》10:00～13:00

《午後》13:30～16:30

●予約制（2か月前より可）、利用料無料、事前登録制●

●フリースペースはどなたでもご利用頂けます●

● 発行 ●

むさしのヒューマン・ネットワークセンター

武蔵野市境 2-10-27 武蔵野市政センター2階

電話/FAX：0422-37-3410

E-mail：mhnc@tokyo.email.ne.jp

ホームページアドレス

http://www.mhnc.jp/

ホームページに
て講座の告知を
してします。
ぜひ最新情報を
チェックしてみ
てください！

ご存知ですか。『まなこ』

武蔵野市の男女共同参画の冊子です。No95が今月発行されています。今回のテーマは「ある日突然介護がはじまったら」です。当センターをはじめ市役所、市政センター、図書館、コミセン、駅等市内約450か所に置かれています。是非手に取ってご覧ください。